

個別指導  
最新情報

選定されるポイントや  
カルテ記載の注意点



志倉氏(左)、藤井氏(右)

社保研究部は11月9日、個別指導対策講習会「指導の最新情報と指導に備えるカルテ記載のポイント」を開催し、15人が参加した。講師は藤井佐都樹、志倉興紀各社保研究部員が務め、個別指導に選定されるポイントやカルテ記載に係る注意点などを解説した。

昨今、「電子カルテ」と称して販売されているレセプトコンピュータがあり、電子保存三原則(①真正性②見読性③保存性)などの要件を満たしていないものが見受けられる。診療所で使用しているものが、本当に電子カルテなのかどうかをベンダーに確認しておく必要があると話した。

講師からは、実際に体験した新規個別指導をもとに、そのときに参加したカルテ記載内容に参加者に披露した。とりわけ

1号用紙はレセコンを使用しているも、転帰欄や主訴などが抜け落ちていたりすることがよくあるので、丁寧に記載することが何

より大事であると強調した。指導通知が届いたら、まず保険医協会に連絡して相談し、一人で悩まずに対応することが何

推奨した。指導通知が届いたら、まず保険医協会に連絡して相談し、一人で悩まずに対応することが何

東大阪・八尾・柏原地区  
住民健診実施

定期受診の大切さ伝わる

東大阪・八尾・柏原地区は11月9日、東大阪健康まつり会場で歯科健診を実施し、大人10人が受診した。

健康まつり参加の高齢者の口腔内を健診し、受診者からの相談に丁寧に答えた。

受診者の多くは普段から歯科医院に通っていたが、今後も口腔内の健康を維持するために、半年に一度は受診を継続することを勧めた。



海道氏



段野氏と歯科衛生士

数十年前歯医者にかかっていたという受診者には、一年に一度無料で歯科健診を受けられることを説明した。「残っている歯が数本しか無いから診てもらえないと思っていた、今度行ってみます」と声を寄せた。

健診には、段野和茂・海道充の各歯科医師と歯科衛生士2人が出務した。

近年、税務調査件数が増加しています。背景には、国税組織の構造変化と、若年職員の急増という避けられない事情があります。慌てず冷静に対応いただくため、現状と留意点を整理します。

若年職員急増がもたらす現場の変化と注意点

税務調査が増えています

税理士 正田英司 (協会税理士団)

若手職員にとっては最初の税務調査であり、正義感をもって臨んでいますが、過度に踏み込んだ調査につながる危うさもあります。必要以上の資料提出や長時間の質問など、かつて問題視されたものが現場の実感で

医療機関の皆さまには、過度に恐れることなく、手続き上認められた権利を踏まえ、冷静に対応いただくことが大切です。日頃から帳票類を整備し、調査が来た際には慌てず、まず税理士に相談することをお勧めします。「税務調査対応チェックリスト」を活用して下さい。

訪問診療で講習会  
「選んでくれた患者は最期まで」

堺・高石・和泉地区



坂口氏

堺・高石・和泉地区は11月15日、坂口勝氏を講師に「外来患者が自宅療

養になったらどうする」と訪問診療最初の「一歩」と題して講習会を開催し10人が参加した。坂口氏は、99歳で亡くなる2日前まで26年間、食事が最期まで楽しめるようにと取り組んだ、義歯作製や

接触・嚥下訓練の実践を紹介した。その中で、身体機能や認知機能の低下にいかに関与しているかを試み、介護職と共

通言語で話せる努力も必要だと呼びかけた。また、「初めての訪問診療は保健師からの依頼に軽く返事をしたことがき

かけだった。自分を選んでくれた患者さんは最期まで診せてもらう」との気持ちで、構えずに取り組んで欲しいと語った。

社保協キャラバン  
代表の矢部副理事長  
八尾市当局を質す



矢部あづさ副理事長が会長を務める八尾社会保障推進協議会は11月6日、八尾市役所で当局と交渉した。国保広域化に伴い高額になっている保険料の引き下げや、国の生活保護引下げ違憲最高裁判決を受けた市の早期対応など、社会保障施策を質した。その中で、う蝕予防のフッ化物洗口を小学校1校で実施・検証中であることが判明し、八尾市全域に拡大することなどを要望した。

税務調査対応チェックリスト

～若手職員の増加・無予告調査への対策版～

【緊急時】突然、税務署員が来訪したら？

※まずは落ち着いて、以下の手順で対応してください。

□相手の身分を確認する

名刺や身分証明書(質問検査章)を提示してもらい、氏名と所属を確認・メモする。

□事務所・診察室の奥には通さない

まずは受付や待合室、入口付近の応接スペースで待機してもらう(不用意に執務スペースを見せない)。

□すぐに顧問税理士へ連絡する

「今、税務署の人が来ました」と伝え、指示を仰ぐ。

税理士と電話が繋がるまで、調査を開始させない。

□税理士の「立ち会い」を主張する

「税理士が到着するまで待ってください」または「税理士と日程調整してから後日改めてください」と伝える。※これは納税者の正当な権利です。

□「今日は都合が悪い」とはっきり伝える(必要な場合)

療中や業務多忙で対応できない場合は、「日程変更」を申し出る。

※調査自体を拒否はできませんが、日時の変更は可能です。

□その場で質問に答えたり、書類を見せたりしない

雑談のつもりでも、不用意な発言が記録される可能性があります。「税理士が来てからお話します」で統一する。

【心構え】調査実施中の注意点

※若手職員の増加やトレンドを踏まえたポイントです。

□相手のペースや威圧感に動じない

若手職員の過度な熱意や、無予告という手法に萎縮しない。冷静な態度を保つ。

□求められた資料だけを提出する

「あれも見せて」と言われても、税理士に確認してから出す。関係ない棚や引き出しを勝手に開けさせない。

□書類・データの「持ち帰り」には慎重に対応する

「預からせてほしい」と言われても即答せず、必ず税理士の判断を仰ぐ(コピーで済む場合も多い)。

【日常】日頃から備えておくこと

□帳票類・請求書の整理整頓

請求書・領収書は不備がないか定期的にチェックする。

□「現金の管理」を適正に行う

レジや小口現金の残高と帳簿が合っているか、日々確認する(現況調査で最初に見られるポイント)。

□スタッフへの周知徹底

受付や経理担当者「突然税務署が来たら、私の許可なく通さず、まず報告すること」と伝えておく。